

# 令和5年度 第1回海老名市下水道運営審議会 会議録

日 時 令和5年8月4日（金）13時30分～14時30分  
場 所 政策審議室  
出席委員 6名  
事務局出席者 理事兼まちづくり部長  
理事（都市・建設担当）  
まちづくり部次長（都市担当）  
まちづくり部次長（建設担当）  
まちづくり部 参事（下水道会計担当）  
下水道課長  
下水道課管路施設担当課長  
下水道課主幹兼業務係長  
管路施設係長  
経営係長  
経営係主任主事  
経営係主任主事  
傍聴者 なし

---

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議 題

## （1）令和4年度決算（経営）状況報告

会 長： それでは、議題に入ります。議題1「令和4年度決算（経営）状況報告」について、事務局より説明をお願いします。

事 務 局： 【資料1に基づき内容説明】

会 長： ご意見・質疑ある方はお願いします。

A委 員： 令和4年度末時点の現金預金残高が約3.5億円であり、当面の間では10億円を確保したいとのことですが、簡単に確保できるものではないと思えます。どのような対策をされるのか具体的にお聞きしたいです。

事 務 局： 令和4年度末時点の現金預金残高が3.5億円まで減少した原因は、主に電気代高騰によるものです。市は県の流域下水道に処理を任せており、その負担金の増加により現金が減少しています。この先も厳しい状況は続く見込みですが、令和10年度に企業債の償還がピークを越えまして、返済額が減

少していくため、資金が増加していく見込みです。しかしながら、当面 10 億円を確保することはなかなか厳しいところがありますので、方策を講じて苦しい状況を乗り越えていきたいと考えております。

A 委員： 確実性は高いのでしょうか。

事務局： 企業債は過去 50 年間で借りたもので、償還額は決まっています。平成 29 年度に公営企業会計へ移行したタイミングで、企業債の償還額以上に企業債を発行しないこととしましたので、企業債の残高は年々減っています。今後も企業債の発行を抑制していくため、企業債の償還額が増えていくことはないので確実性は高いと考えています。また、企業債の残高が減ることにより、それに伴う利息の償還額も減っていきます。電気代高騰等も踏まえても令和 10 年度以降は資金に余裕が出てくる見込みです。

A 委員： 見込みのとおりうまく運んでいくといいのですが、予期せぬことが起きる可能性もありますので、対策をいただければと思います。

事務局： 少し補足させてください。令和 4 年度に下水道使用料の改定をさせていただきました。これは令和 2 年度から当審議会にて協議していただき、10% の値上げに至りました。この値上げにより 10 億円を確保できるような形で進めてまいりました。ただ、その後、ウクライナ情勢などの影響により燃料が高騰しており、県の流域下水道に支払わなければならない負担金が増加してしまいました。本来であれば 10 億円確保する方向でいく予定だったものが予定どおりいなくなったのが今の状況です。また、当面の間 10 億円を確保したい理由としましては、半年分の企業債元利償還金及び流域下水道負担金に災害復旧費を足したものが、瞬間的に必要となる最大の現金であると設定させていただいているからです。

## (2) 経営戦略改定について

会長： 次に議題 2 「経営戦略改定について」を、事務局より説明をお願いします。

事務局： 【資料 2 に基づき内容説明】

会長： ご意見・質疑ある方はお願いします。

B 委員： 「BCP 計画」と「PDCA サイクル」の意味を教えてください。

事務局： 「BCP 計画」とは、災害などが起きた際に下水道業務の継続や復旧するためのマニュアルのようなものです。

事務局： 「BCP」とは、**Business Continuity Plan**（ビジネス・コンティニューイティ・プラン）の略です。事業を継続していくための計画という意味です。

なぜBCPが必要かと言いますと、下水道も大事なインフラですから、災害が起きて管が使えなくなり排出できないと大変なことになります。その際、まずどんなことから復旧していくか、その為に職員はなにをするのか、そういったものがBCPに示されています。下水道事業を継続していくためにどのような事業をやっていくか、どのように収入を得て経営をしていくか計画しているものが経営戦略であり、その中の一つとしてBCP計画に伴う訓練をするということを目指して定めています。

経営戦略の見直しをしなければならない理由としては、経営戦略は人口の影響が大きく、人口が変わると経営の考え方も少し変わります。当市は7月に人口が14万人に達しました。使用料を払ってくれるのも下水を使うのも人ですから、経営の考え方も見直ししていかなければならないのです。計画期間は10年ですが、5年毎の見直しのタイミングが来ていますので、今後具体的にお示ししていく中でご意見をいただければと思います。

事務局： 「PDCAサイクル」とは、**Plan**（プラン）、**Do**（ドウ）、**Check**（チェック）、**Action**（アクション）の略です。計画を立てて実行し、その行動を評価し、結果に基づき改善を図り、またさらに計画を立てるといったサイクルになります。令和元年度に経営戦略を策定し、5年間実施してきました。現在はチェックの段階であり、チェックを基に改善をしていきます。人口の変動や電気代高騰など外からの要因もあわせて考え見直しをして、また新たに計画を10年間分つুক্তっていくことをPDCAサイクルと表現をしています。

事務局： 「BCP」について補足させてください。災害等で通常行ってきた下水道業務が行えなくなった際に、いかに早く通常業務に戻すかという仕組みを計画立てたものがBCPです。下水道業務や市役所だけではなく、様々な組織がそういった考え方のもと作成しています。

会長： 訓練の内容について具体的に説明していただきたいです。

事務局： 例えば、地震災害時に下水道が繋がらない状況などのシナリオに沿ってシミュレーションをします。あるいは、現場の現地確認にて管渠の破損を発見した場合どのように復旧をしていくか想定し訓練を行っています。ここ数年はコロナの影響で現場での訓練は行えていませんので机上訓練を行っています。コンピューターが動かなくなり下水道台帳が見られなくなったときの対応などを机上訓練しました。

会長： 訓練は年に1回実施しているのですか。

事務局： 訓練は何回やってもいいものだと思いますが、人事異動や工程の確認の

ため、最低1回は実施することとしています。

会 長： 経営戦略は市議会の議決が必要なものでしょうか。

事務局： 現経営戦略策定の際は、議決ではなく報告をしております。また、国や県に提出するものでもないため、各自治体で作成していれば問題ないです。

### 3 その他

会 長： 次にその他として何かございますか。

事務局： 今後の審議会の日程につきましては、第2回が令和5年12月頃、第3回が令和6年2月頃開催を予定しております。詳細な日程は改めて調整いたしますので委員の皆様、よろしくお願いたします。

### 4 閉 会